

IPM実践指標(ねぎ(露地))

管理項目			管理ポイント	点数	チェック欄		
					昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点			
		土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点			
		施肥管理	白さび病などの病害の発生を予防するため、適切な施肥管理をする。	1点			
		排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備するなどの改善を行う。	1点			
		健全種子の播種	種子は充実がよく健全な種子を使用する。	1点			
		播種量の設定	過密とならないよう、適切な条間・播種量で播種する。	1点			
		残渣処理	ネギハモグリバエやネギアザミウマの発生源となる収穫調整後の残渣はビニルなどで被覆し、適切に処分する。	1点			
判断	防除要否、タイミングの判断	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点			
		気象情報の把握	週間天気予報等の気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除を心がける。	1点			
		トラップの設置	青色または黄色の粘着トラップを設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、防除時期の判断をする(ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ)。	2点			
		病害虫の観察	近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点			
			病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点			
		土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前後で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	1点			
防除	物理的防除	防虫ネットの設置	シロイチモジヨトウやネギハモグリバエの侵入を防止するため、目合い0.8～4.0mmの防虫ネットを圃場全面に被覆する。	2点			
		土壌消毒	土壌病害、線虫、雑草に対して太陽熱利用土壌消毒等で土壌消毒を行う。	1点			
	生物的防除	合成性フェロモン剤の利用	シロイチモジヨトウの対策として、交信攪乱用の合成性フェロモン剤を設置する。	2点			
		生物農薬の利用	シロイチモジヨトウ、あるいはハスモンヨトウに対して生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点			
	化学的防除	農薬の使用全般	作物の生育に併せ、十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点			
		粒剤の利用	定植時に粒剤を処理する。もしくは薬液を灌注処理する。	1点			
		薬剤の選択	土着天敵に影響の少ない選択性殺虫剤(気門封鎖剤、ピリダリル剤、ジアミド系剤、IGR剤、BT剤等)を利用する。	1点			
			特定の薬剤、同系統の薬剤を繰り返し使用しない(気門封鎖系剤を除く)。また、既に効果の低い薬剤の使用は避ける(特に、シロイチモジヨトウ)。	1点			
その他	作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点				
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点				
				合計 点数			
				対象IPM 計			
				評価結果			